

(公開用)

令和6年度 第1回 飯山市 子ども・子育て会議 会議録(要旨)

開催日時 令和6年10月2日(水) 午後1時30分～

場 所 飯山市役所 4階 全員協議会室

出席人数 委 員：17名(2名欠席)
事務局： 9名

(公開用)

(1) 第三期飯山市子ども・子育て支援事業計画(素案)について

事務局： (説明)

会長： 只今「飯山市子ども・子育て支援事業計画」について説明がありました。質問意見のある方は挙手のうえ、お名前を述べてからお願いします。

委員： 私は10年間ママサポートに携わってきましたが、出生数の減少を肌で感じる一方、ママサポートの参加者数は大きく減っていません。これには、子育て支援への高いニーズが反映されていると感じます。しかし、少子化が進む中で、保育園や幼稚園の今後は市にとって喫緊の課題です。特に、公立保育園は老朽化が進み、水害や地震への備えにも不安があります。こうした課題に対し、迅速に方針を示すことが重要だと考えます。

また、私は主任児童委員をやっていますが、コロナ禍を経て、運動会や文化祭などの行事に招待される機会が増え、子どもたちの姿を見る中で、飯山市のような規模の小さな地域では、一貫性のある幼児教育や学校教育の重要性を感じています。

私は小学校の学校評議員も務めていますが、昨年度、ある小学校では地域密着型の音楽会がとりやめられました。理由として校長先生は「働き方改革」と「子どもたちの負担軽減」を挙げられていました。しかし、中学校では音楽会が行われており、小学校で音楽会を経験しない子どもたちが中学で苦勞するのではないかと心配する声も保護者から聞きました。それぞれの学校の教育方針もあると思いますが、こうした点について教育長のご意見を伺いたいと考えています。

教育長： 一貫性というのは、具体的にどの点についてのことでしょうか。

委員： 保育園から小学校、さらに中学校へと進む中での連携や、働き方改革を踏まえた小学校と中学校の教育方針についてです。特に、小学校で音楽会がとりやめられる一方、中学校で実施されている点について、教育委員会としてどのように考えているのか伺いたいと思います。

教育長： ポイントとしては、音楽会に一貫性が欠けているという点でしょうか。

(公開用)

委員：教育委員会としてどのように対応しているのか、もしくは各学校の判断に任せているのかが気になります。

教 育 長：昨年度、この小学校では音楽会の代わりに２月に音楽発表会を行ったと聞いています。音楽の学習成果を発表する場は必要であり、幼稚園から中学校までのカリキュラムの縦のつながりを意識した取り組みが重要だと思います。ただし、行事としての一貫性については、各学校の方針も影響します。工夫次第では小学校でも何らかの形で取り組めるのではないかと考えています。

会 長：他に質問はよろしいですか。

委員：出生率の低下を踏まえると、将来の保育園児や小学生の人数は大幅に減少すると予想されます。現在の保育園や子育て支援に関する議論は重要ですが、そもそも子どもが増えなければ根本的な解決にはならないと考えます。

子どもを増やすためには、出生率の向上が不可欠です。市として、出生率を上げるための具体的な施策についてどのように考えているのか伺いたいです。

事 務 局：担当部署ではないものの、不妊治療への補助や婚活事業を通じて、結婚や出産を望む方への支援を行っている認識しております。婚活事業は社会福祉協議会に委託しており、出会いの場を提供するなどの取り組みを進めています。行政として、結婚や出産を希望する方に対して可能な限りの支援をしております。

委員：自分の従業員も支援金を受け取っており感謝しています。引き続き、こうした取り組みを続けてほしいと思います。

会 長：他に質問はよろしいですか。

委員：私は長野市から飯山市に引っ越してきましたが、出産施設や小児専門の病院が少なく、３人目の出産を迷った末に断念しました。安心して出産や育児ができる環境があれば、保護者としては大変ありがたいと感じます。

委員： 自分も不妊治療を経験し、北信地域には治療施設がなく、長野市まで通うことに負担を感じていました。幸い現在は3人の子どもがいますが、出産をするために市外に行かなければならない現状があります。多くの人が他市町村で出産しており、飯山市内での出産環境が課題だと思います。

さらに、核家族化が進む中、親のサポートを受けられない家庭では子育てがさらに大変です。産後の育児費用（オムツ、ミルク、衣類など）も大きな負担であり、例えば出産祝い金やベビーカー・チャイルドシートの無料提供などの支援があると嬉しいです。また、中野市のように病院の選択肢が多い地域と比べて、飯山市では受診が難しい場合があります、子育てのしやすさに課題を感じます。

一方で、家庭児童相談員の支援には大変助けられています。息子が小さい頃から中学生になった現在も継続して相談に乗ってもらっており、その点には感謝しています。

委員： 幼稚園の立場から、少子化を目の当たりにして今後の幼稚園の存続を懸念しています。市全体としてどのような子育て方針を打ち出すのかが非常に重要であり、小中学校の統合が進むのであれば、保育園や幼稚園も0歳児から就学前までを一貫して支える「認定こども園」のような形が望ましいと考えます。他市では市が私立幼稚園を認定こども園化し、市内の全ての子どもを預けられる仕組みを整備している例もあり、参考になるのではないのでしょうか。

また、保育料や給食費が無償化されている中で、家庭で子どもを育てている保護者には支援が少ない現状に目を向けるべきだと考えます。かつて、家庭で子育てをしている保護者が「無料なのになぜ預けないのか」と周囲から疑問視され、ショックを受けたという話もありました。園や施設に通わせる子どもへの支援が充実している一方で、自宅で育児をする家庭に支援が行き届いていない点も課題だと感じています。

委員： 当保育園では6カ月からの受け入れを行っていますが、特に産婦人科が市内にないことに対する保護者の不安が大きいです。出産場所や移動手段に関する質問が多く、他市町村で出産する保護者が増えています。ある国の例では、産婦人科や子どもを診られる病院の設置が人口増加に寄与したという事例もあり、飯山市でも同様の施策が必要と考えます。

また、資料の自由記述にあった「妊娠から出産。出産から保育園入園までの金銭面。お金がかかる、もしくは無いから早くに保育園に入れなければならないのはおかしい」という意見は重要です。出産後の育児負担が軽減されれば、飯山市がより住みやすい地域になるのではないのでしょうか。さらに、緊急時に対応できる病院や医療施設が充実していれば、子育て環境の魅力が高まり、市外からの転入者増加につながると考えます。

自分自身、コロナ禍の際、病院で診てもらえず辛い経験をしました。緊急時に診てもらえない、または待ち時間が長い医療機関が多い状況では住みにくさを感じる人が増えるでしょう。安心して診療が受けられる医療体制の整備が、子育て世帯にとって魅力的な環境作りに必要だと思います。

事務局： 地域で安心して出産できる環境を整えるために、10 年以上前から飯山日赤で分娩ができるようお願いしてきているが、産婦人科医が全国的に不足しており、3 人以上の常勤医師を確保することが難しい状況です。今は北信病院を周産期医療の拠点にして、信州大学の病院から医師を派遣してもらおう等の方向で進めています。本当のことを言えば飯山市で対応できるのが一番良いが、現状では難しい状況となっております。

市では、自宅から分娩施設まで遠いところについて、病院近くで宿泊した場合、宿泊費や交通費を補助する取り組みを始めています。安心して育児ができるような環境づくりにこれからも取り組んでいきます。

委員： 4 月から飯山市こども女性家庭センターが設置されているというが、今のところスムーズな状態で運営されてるのですか。

事務局： 昨年まで女性相談は別の場所で行われており、昨年度実績で 4 件の相談がありました。今年度から市役所 1 階に「こども女性家庭センター」を設置し、相談件数は増えております。これまではお子さんがいる家庭からの相談が主でしたが、お子さんがいない家庭からの相談も来るようになっていきます。

委員： 人口減少に伴い、飯山市の将来が心配になります。総合的かつ早急に、現状の子どもたちが充実した環境で育つための取り組みと、出生率向上を目指す施策を並行して進める必要があると考えます。

(公開用)

事務局：今回、私たちも「子ども・子育て支援事業計画」ということで、主に子育て期の保育園などに焦点を当てた計画と認識しておりました。しかし、本日いただいた各委員のご意見を通じて、子育て期以前の段階が非常に重要であると再認識する必要があると感じております。

また、少子化対策に加え、移住・定住対策も進めており、飯山市には年間約 100 人が移住してくる実績があります。例えば、現在建設中の城北小学校について、3 年前の推計ではある学年の児童数が 35 人未満と見込まれ 1 クラス編成の計画でした。しかし、その後の移住増加により、現在は 2 クラス編成が必要な状況となっています。

移住者の傾向として、最近では家庭を持つ 30 代の若い世代が増加していると聞いております。出生支援とともに、移住・定住対策を含めた総合的な取り組みの重要性を改めて感じているところです。

委員：最近、移住者が増える中で、特に外国籍の方が多くなっています。幼稚園では、親御さん同士や園とのコミュニケーションが難しいと感じる家庭も多くあります。例えば、両親とも外国籍の場合、スマホの通訳アプリを使いながら対応することがあり、入園案内などで困るケースもあります。子どもたちは日本語を覚えるのが早いですが、親御さんはそうはいかに書類対応などで苦勞することが多いです。市職員でなくても、通訳をお願いできる方や情報があれば助かると感じています。

事務局：市には英語が話せる国際交流員が在籍しており、過去には税務課の業務で通訳を依頼した例もあります。事前にご連絡いただければ、子ども育成課を通じて調整が可能ですので、遠慮なくご相談ください。

会長：他に質問はよろしいですか。なければ進行を事務局にお返しします。

事務局：本日は限られた時間の中、貴重なご意見をいただきありがとうございます。ご質問等は配布済みの「ご意見・ご要望回答シート」をご活用ください。こちらの提出期限は 10 月末までとさせていただきます。

次回の開催は令和 7 年 2 月頃を予定しており、今回いただいたご意見や回答シートの内容を反映し、素案を案に変え、資料として事前にお配りしたいと思います。長時間にわたり大変お疲れ様でした。

以上をもちまして令和 6 年度 第 1 回 飯山市子ども・子育て会議を終了させていただきます。